

第11回 日本ファシリティマネジメント大賞-JFMA賞

〈表記凡例〉 応募タイトル
FM実践組織(所在地)
サービス提供者



● 最優秀ファシリティマネジメント賞(鶴澤賞)

魅力あるまちづくりをFMで(魅せるFM)

— 文化財施設等の新しい価値の創造と次世代への継承 —

青森県 弘前市

株式会社前川建築設計事務所、株式会社西村組、スターバックスコーヒージャパン株式会社
株式会社まちづくり計画設計、アズビル株式会社

講評：人口約18万人を有する青森県第3の都市、弘前市による公共施設67.3万㎡(3.76㎡/人)へのFM導入による好事例。2010年の葛西市長就任以来、AMとFMの導入を掲げ、2013年にはFM担当部署を発足させている。2014年度には「弘前市経営計画」に「公共施設の適正管理」を掲げ、2016年2月には、公共施設等総合管理計画を策定し、2016年度末までに実行計画を策定中である。弘前城、弘前城公園、市庁舎、市民会館などを「文化財」として次世代に継承し、観光にも活用する戦略である。汚水処理施設の共同整備、下水処理場の統合化、電算システムのクラウドによる共同利用などの広域連携もある。市長自らが小学校でFMの講座を行うなど、持続可能な自治体経営に不可欠なものとしてFMを位置づけ、普及啓発に努めている。さくら、りんご、お城、前川建築なども継承・発展すべき経営資源ととらえ、活用と継承を図っている。市庁舎も窓口をワンストップサービス化するなど行政改革も努力しているなど、総合的に高く評価された。



日本ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞) は、日本国内におけるFMの普及・発展に資することを目的として、FMに関する優れた業績等を表彰する制度です。2016年12月20日に第11回日本ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞) が発表されました。2017年2月に開催される第11回日本ファシリティマネジメント大会 (ファシリティマネジメントフォーラム2017) において授賞式と受賞者による事例発表が行われます。

● 優秀ファシリティマネジメント賞

FMによる健康経営の実現 — FHABを中心として —

株式会社フジクラ

(東京都江東区)

株式会社イトーキ、株式会社シマノ、
エルゴトロンジャパン株式会社、
国立研究開発法人産業技術総合研究所

講評：2011年より継続している健康経営と連携したFMに関する事例。社員の健康増進・疾病予防を、経営陣は経営課題ととらえ、中期経営計画に盛り込んでいる。健康経営との連携では、社員の健康づくりを促進する場とそれを生み出す活動をFMと位置付けている。2016年より、全国の事業所に横展開を始めた。健康経営の数値化、見える化に意欲的で、先進的な試みである。スタンディングデスク (作業面が上下する) についても、全国の事業所へ展開する予定。健康づくりに加えて、働きやすさ、生産性向上も掲げており、社内コミュニケーションも向上。健康経営を推進しながら、他のFM課題取り組みに発展が期待されるなど評価された。



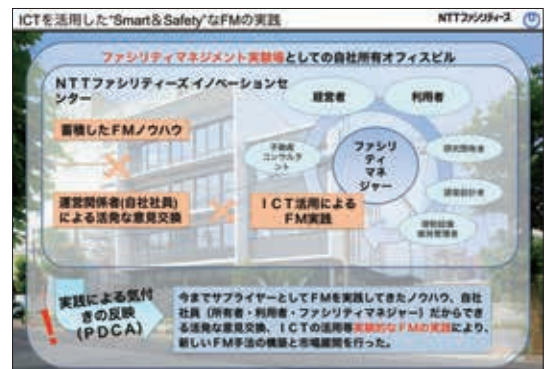
● 優秀ファシリティマネジメント賞

ICTを活用した "Smart & Safety"な FMの実践

株式会社NTTファシリティーズ

(東京都港区)

講評：自社ビルのオフィスでの実験的なFMへの取り組みに関する事例。2011年から準備を開始し、建物は2014年に竣工して、運営を続けている。ICT活用によるワークスタイル改革、BIMとFMの結合による施設管理の効率化などが特徴である。入居するのは同社の研究開発部門で、これまでサービス提供者としての業務を手掛けてきたが、ここでは自社施設として、企画から建設、運営までインハウスのFMを実践する実験場としている。スマホを活用する設備操作、位置情報によるユーザー行動分析など意欲的な試みがある。ファシリティコスト36%削減、利用者満足度33%向上などの成果もあげ、評価された。



● 優秀ファシリティマネジメント賞

FMによる 価値創造を目指した 研究開発棟(SKT棟)の構築

コニカミノルタ株式会社

(東京都八王子市)

株式会社竹中工務店

講評：研究開発棟のワークプレイス改革にFMを取り入れた事例。同社の日本での事業が研究開発中心にシフトしており、その拠点づくりとしてSKT棟が位置づけられている (生産拠点は海外に移転)。SKT棟の計画が始まった2013年からFMの組織体制整備が整い、全国の事業所に展開されつつある。現時点での成果としては2015年竣工のSKT棟と八王子事業所など数か所のワークプレイス改革がある。経営戦略と直結したワークスタイル改革、経営企画担当がFMの重要性に気づき、自らFM組織を立ち上げ統括マネジメント体制を築いたことなどが評価された。なお、余剰不動産を含めた施設資産の全体最適を図るFM戦略策定とその推進が今後の課題といえる。



● 優秀ファシリティマネジメント賞

文化財として保存した 庁舎の活用と FMサイクルの浸透

— 鬼北町庁舎再生への取り組み —

愛媛県 鬼北町

講評：人口1万人強の町役場がFMに取り組んでいる事例。鬼北町は、愛媛県南西部の中山間地域にあり、高齢化率は41%と非常に高い。町役場は、1958年竣工したレーモンド建築設計事務所の設計。耐震補強の必要性、老朽化への対応で、建替えを検討していたが、文化財（登録有形文化財）として活用を決定。改修費用は3.8億円＋木造庁舎増築（2.9億円）で、建替え費用の10億円と比べて安価にできた。職員の意識改革、窓口ワンストップサービスなどワークプレイス改革、紙書類削減も進め、町おこしの拠点となっている。耐震改修は、デザインの特徴を損なわないよう配慮されている。その他、町では廃校校舎の企業誘致による活用、JRバス施設の用途変更による歯科医院への転用、旧法務局のケーブルTV局による転用など、官民間問わず、既存施設の有効活用を図っている点なども評価された。



● 特別賞

鉄道高架下空間の 有効活用による 地域活性化事例 AKI-OKA STREET

株式会社ジェイアール東日本都市開発

(東京都台東区)

株式会社交建設計
株式会社コギト・エルゴ・ズム
JR東日本ビルテック株式会社

講評：秋葉原・御徒町間の高架下の活用事例。耐震改修を兼ねた改修により、高架下に商業空間を創設した。2010年の一部開業以来、継続的に拡張・発展をさせており、年間100万人以上の流入者が地域社会に貢献している。周辺地域と連携したアクセサリー、革製品などものづくりの拠点となっている点、工房と店舗を同時に見せるテナントの意図的誘致などは評価できる。収益性など経営への貢献もある。列柱の利用や内部にストリートを設けるなど施設計画もよい。にぎわいの演出と「何もない空虚さ」からの脱却は、近隣の商業従事者からも好感されているなど評価された。



● 技術賞

輻射空調による快適性と 省エネの両立ができる ワークプレイスの実現

株式会社トヨックス

講評：同社が1998年より推進している輻射空調の技術に対する応募。19年間で、83件の実績がある。病院、大学校舎、オフィスビルなどに活用されている。同社の輻射空調は、天井に敷設した輻射面を主として利用するもので、換気、除加湿のシステムが組み合わせられる。従来の空調方式と比較して30%程度の省エネが期待でき、ランニングコストを含むLCCも50年で20%程度割安になると試算されている。送風の影響が少なく、温度ムラが少ないなどの特長がある。健康経営指向の経営環境の中でのワークプレイス計画など、FMのねらいを実現する空調技術のひとつといえる。

● 奨励賞

自律と協働を促進し 「個と組織を生かす」 ワークプレイスの構築

株式会社リクルートマネジメントソリューションズ

(東京都品川区)

株式会社ザ・デザイン・スタジオ

講評：ABWによる全席ノンテリトリアルオフィス（グループアドレス的）の構築を中心とする事例。2015年3月から2016年5月までのきわめて短期間にオフィスづくりのプリーフィングから移転完了までを終えている。ワークスタイル変革を掲げた調査・分析・検討を全員参加型で行い、プリーフィングへとまとめている。コンサルティング企業としては、顧客の研修が多い特性を反映して研修施設を増床して別ゾーンに設定され、活用されている（全体で10%増）。効率的なスペース利用（370席→250席）や利用者POEなどの調査を実施しており、総務担当がFMを兼務し継続推進している。

● 奨励賞

メドトロニック日本法人の 本社統合における戦略的FMの実践

日本メドトロニック株式会社

(東京都港区)

ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド

講評：東京に本社を構える3社2拠点の統合移転プロジェクト中心の事例。ABWによるノンテリトリアルオフィスになり、オープン化と省スペース化、賃料削減を達成。プロジェクトチームでの活動で、移転後総務部に継承されているが、FMの組織体制は弱く、補完するために安全衛生委員会が定期的にオフィスを巡回し、課題の発見、是正の指示を行っている。完全な経営統合化には未着手の状態だが、ワークプレイスは境界なく、ユーザーは一体化して利用しており、ワークプレイスの統合化、FM担当の共同化も進んでいる。

● 奨励賞

ファシリティ・マネジメントに基づく 建築生産プロセスの研究

古橋 秀夫 (東京美装興業株式会社)

宮原 俊介 (株式会社アーバン設計)

講評：学位論文そのものではなく、その後の共同研究および教育の現場での普及活動などを含めた応募である。FMの視点では、運営維持段階情報のフィードバックによる企画・設計段階での活用、建物のライフサイクルを意識した設計・施工の重要性の訴求などがあげられる。今後、さらに研究が進められ、運営維持面からFMへ貢献することを期待された。

● 奨励賞

地方自治体オフィスの 改修計画に関する研究

安藤 亨 (三重県伊勢建設事務所)

講評：三重県庁舎のオフィス改革に関連するオフィス計画とワークスタイルについての博士論文。三重県の本庁舎のオフィス改革は、2001年から進められた。論文前半は、オフィス改修計画と段階的な工事プロセスにより、実証と改善を進展させる方法の有効性を検証するものといえる。後半は、その後10年間のオフィスの変遷について、オフィスのタイプ分類とワークスタイルとの関連性についての研究と地方自治体オフィスの改修計画への提案となっている。FMへの貢献では、地方自治体職員のワークプレイスとワークスタイルの関係について研究した点がユニークである。1事例の解析だけでなく、さらなる事例研究が期待された。

講評 審査委員会委員長 沖塩 莊一郎

審査委員会委員 (委員以下五十音順、敬称略) 2016年12月20日

委員長 沖塩 莊一郎 (東京理科大学 名誉教授)
副委員長 深尾 精一 (首都大学東京 名誉教授)
委員 安達 功 (株式会社日経B P 執行役員 建設局長)
川元 茂 (国土交通省大臣官房 官庁営繕部長)
北川 正恭 (早稲田大学 名誉教授)
中内 重則 (経済産業省商務情報政策局 日用品室長)
村田 博文 (株式会社財界研究所 代表取締役)
柳澤 忠 (名古屋大学・名古屋市立大学 名誉教授)
米倉 誠一郎 (一橋大学イノベーション研究センター 教授)
成田 一郎 (公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 専務理事)

● 授賞式と授賞者による発表

第11回 日本ファシリティマネジメント大会
(ファシリティマネジメントフォーラム2017)

- ・第11回 日本ファシリティマネジメント大賞 授賞式
2月23日(木) 15:50~18:00
- ・受賞者による事例発表講演
2月24日(金) 10:30~17:40

JFMA 30年のあゆみ

Japan Facility Management Association

1987

日本ファシリティマネジメント協会
設立(千代田区内幸町)

IFMA との交流をはじめ、
欧米への FM 調査団派遣などが
盛んに行われました。



1988年にFM ガイドブック作成部会が発足し、1994年12月には「ファシリティマネジメントガイドブック」を発刊

1989年から1993年までは
JFMA-MIT FMスクールを実施。

1990年には調査研究部会の活動が
スタートしました。



2001年8~9月
キャンパスFM米国調査団

2003年10月
米国FM調査団



2004年10月
認定ファシリティマネジャー
資格更新講習



2007年2月 第1回日本ファシリティマネジメント大会
パシフィコ横浜

2007年2月 第1回日本ファシリティマネジメント大賞
(JFMA賞) 発表会

2008年9月
IFMA
ワールドワークプレイス

2008年9月 米国FM調査団



2012年8月
第1回 初級FMスクール

2013年3月
第7回 日本ファシリティマネジメント大会
(JFMAフォーラム)
チャリティコンサート

2013年 公共FMスクール



最先端のIT技術を活用したファシリティマネジメントが日本に紹介され30余年。
日本のFMの歴史は、JFMAのあゆみと深くリンクしてします。
写真をとおしてその30年のあゆみを振り返ってみます。

1996

社団法人化
社団法人日本ファシリティマネジメント推進協会

社団法人となり、資格試験の実施、
FMのすぐれた取り組みを表彰するJFMA賞の創設など、
FMの普及・発展のための事業がスタートします。



1996年 設立総会



理事会

2000年9月
ワールドワークプレイス
髙澤会長 FM最優秀貢献者賞 受賞
(米国・ニューオーリンズ)



2005年10月 更新講習



2006年 3月 ウィークリーセミナー
日比谷共同溝見学

2004年11月
第7回 FM国際大会



2006年 7月 日韓FM大会



2009年2月 第3回 日本ファシリティマネジメント大賞
(JFMA賞) 受賞記念撮影

2010年10月
中国FM不動産現況視察調査団

2012

公益法人化
公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会

公益社団法人となり、初級FMセミナーや公共FMスクールがスタート。
ISOの会議が東京で開催され、世界のFM関係者との交流が行われました。
2014年2月にはアセットマネジメント特別シンポジウムを開催。

2012年 アジアFM 調査団



2013年9月 ISO TC267 Tokyo International Meeting

2015年 マカオFM協会来日

2015年11月 インフラマネジメント・シンポジウム

2016年2月 第10回 日本ファシリティマネジメント大会
(JFMAフォーラム) 開会式



2017 設立30周年

ごあいさつ

山田 匡通

やまだ まさみち

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会
(JFMA・ジャフマ) 会長



会員の皆さまには日頃より当協会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

おかげさまで、今年で当協会は設立 30 周年を迎えることができました。これも会員の皆さま、理事の皆さまのご尽力の賜物でございます。

当協会は、鶴澤昌和会長（当時）のもと、1987 年に任意団体として発足し、1996 年 9 月に経済産業省、国土交通省より社団法人として設立許可され、2012 年 1 月に内閣総理大臣より公益社団法人として認定されました。昨年が法人化 20 周年、今年が設立 30 周年ということで、それぞれ機関誌 JFMA ジャーナルで特集を組みました。

日本にファシリティマネジメント（FM）の考え方を取り入れようと、鶴澤昌和会長はじめ先輩諸氏のご尽力で、認定ファシリティマネジャーの資格制度やそのための参考書づくり、そして JFMA の社団法人化と確実に歩み続け、日本に FM を定着・浸透させてまいりました。

さらに、坂本春生前会長は、FM を第四の経営基盤と位置づけ、広く経営者や公共に FM の必要

性を訴えられ、わが国の FM の樹を大いに茂らし、その成果は公共 FM の進展や日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA 賞）などにもみることができます。

近年、わが国において、公共施設等の老朽化対策が大きな課題になり、2014 年 4 月に総務省から地方公共団体に「公共施設等総合管理計画」の策定要請がされ、その期限が今年の 3 月までとなっております。これらに対して、JFMA もこれまでさまざまなお手伝いをさせていただきましたが、昨年 10 月には、地方公共団体へのエールとして小冊子『公共ファシリティマネジメント戦略』（A5、109 ページ）を制作し、全国の 1,800 近い地方公共団体の首長に直接お送りいたしました。これは自治体の皆さまが今後、計画から実行に移す際に必要なファシリティマネジメントの考え方や課題を多くの事例を交えて解説したものです。その結果、多くの地方公共団体の首長からお礼状をいただくとともに、当協会に公共特別会員として、ご入会いただいております。

FMの普及・発展とファシリティマネジャーの交流の場として、毎年2月に3日間開催しております「JFMA フォーラム」も30周年をひとつの区切れとして、名称を「ファシリティマネジメントフォーラム」とより親しみやすく改め、新たな一步を踏み出してまいります。日本にFMが渡来して30余年、新たなFMのステージへTRYしていこうと、今年は、フォーラムのテーマを「FM思考で社会・経営の課題を解決する」とし、基調講演を建築家・東京大学教授の隈研吾様、特別講演を日本マイクロソフト株式会社会長の樋口泰行様と国土交通省大臣官房官庁営繕部長の川元茂様をお願いし、2月22日(水)より24日(金)まで開催いたします。

FMへの理解を経営層はもとより、若い方々、学生さんにもいかに広げていくが課題ですが、前号(法人化20周年記念号)のJFMAジャーナルでもご紹介いたしました10歳の少年のFMへの夢や大学生・大学院生等のワークショップ形式の討論会などは、FMの未来を明るくしてくれます。

FMのISO化も、ISO41000シリーズとして検

討が進められ、JFMAが、日本の審議団体として対応していますが、戦略的な調達や合意書の作成に関するガイドラインが今年には発行される予定です。さらに、2年後にはFMシステムとしての認証制度として発行される予定です。これらISOの内容を踏まえ、国内的にも大きく進化しているFMを資格試験にも反映すべく、FMの教科書『総解説ファシリティマネジメント』も大改訂し、本年秋の発刊をめざして委員各位には頑張ってください。

理事の皆さまはじめ、各委員会の皆さまと懇談する機会を持ち、広くご意見を頂戴しておりますが、今後ますますFMの根を掘り下げるとともに、広くFMを広めるべく各種施策を検討しております。

設立30周年を迎える今年を、FMのパワーを社会や経営に役立て、人々を幸福に導くFMとしての新たなスタートの年にしたいと思います。

今後とも、皆さまのご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

● お祝いメッセージ

経済産業省
JFMA設立30周年に寄せて

このたび、貴協会が設立30周年という節目を迎えるにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）におかれましては、毎年恒例となった日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）・日本ファシリティマネジメント大会（JFMAフォーラム）も11回を数え、多くの取り組み、先進事例が紹介されてきました。また、認定ファシリティマネジャー資格を取得された方々も13,500人を超え、現場を支える人材として活躍されているとお聞きしております。このような関係各位のファシリティマネジメント（FM）の発展に向けた取り組み、これまでの活動に敬意を表します。

JFMAが設立された1987年は、携帯電話が発売された年であり、それ以来、多くのIT機器がオフィス・公共の場・生活の質を向上させてきました。それにともない、オフィス環境も大きく変化し、企業経営の要素としてヒト・金・情報に続く重要な「第四の経営基盤」である「ファシリティマネジメント

中内 重則

なかうちしげのり

経済産業省製造産業局
生活製品課企画官



（FM）」の概念も明確化され、グローバル企業では相当に受け入れられてきております。

一方、参加メンバーが業種横断的に構成されている貴協会は、まさにダイバーシティ（多様性）を生かし、活発なコミュニケーションの場であるとも聞いております。FMは、組織の考え方を変えたり、その効果が現れるまでに時間を要するといわれていますが、FMを第四の経営基盤として位置づけ、経営者がその価値に気づき、経営そのものとしてFMの考え方を取り入れていただくことが必要です。そのためには、JFMAへの参加がもっとも近道であるといえるのではないのでしょうか。

FMは組織横断的に実施することが大切であるといわれますが、当省といたしましても、FMのISO化、働き方改革、健康経営などの取り組みに対して、関係省庁と連携しつつ推進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、FMの普及・ご発展とともに、貴協会・FM関係者の皆さまのますますのご活躍を祈念いたします。

● お祝いメッセージ

国土交通省
JFMA設立30周年に寄せて

安藤 恒次

あんどこうじ

国土交通省住宅局 建築指導課
建築物防災対策室長

創立 30 周年おめでとうございます。

貴協会におかれましては、わが国でいまだ「ファシリティマネジメント」という言葉になじみがない時代から、その重要性・必要性を認識し、長年、ファシリティマネジャーの養成、マネジメント技術の普及、同じ課題を共有する海外諸国との交流など、ファシリティマネジメントの普及・定着のために、幅広い活動を展開されてこられたことに対し、深く敬意を表します。

省エネルギーや資源の有効活用など環境問題に対する関心が国際的にも一層高まっている中、建築、利用、維持管理、更新といったライフサイクルを通して、効率的に建築物のマネジメントを行っていくことは、社会的に大きな課題となっています。

また、阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめ繰り返し大きな地震被害を経験し、南海トラフ沿いの巨大地震や首都直下地震等の切迫性が指摘されている中、建築物の耐震対策や津波対策を一層強力に推進していくことが喫緊の課題となっています。

昨年発生した熊本地震では、住宅被害だけでなく、自治体の庁舎、避難所、病院など災害時に防災・避難・

救助等の拠点となるべき施設において、倒壊には至らないまでも構造部材の部分的な損傷、非構造部材の落下、建築設備の損傷等により、地震後の機能継続が困難となった事例が多数見られました。今後、民間の建築物を含め、被災後の機能継続が期待される建築物については、人命保護の観点から倒壊を防止するだけでなく、建物所有者や管理者のニーズに応じて、地震による損傷を少しでも軽減し、期待される機能が被災後にも維持できるような設計上・管理上の配慮が求められていくものと考えています。

建築物については、建築、利用、維持管理、更新といったライフサイクルの中で発生するさまざまな課題に関して、建物所有者や管理者の意識を高め、社会が一体となってそれらの解決に取り組んでいくことが必要であり、貴協会の活動に対する期待は今後ますます高まっていくものと推察します。

創立 30 周年が貴協会の一層の発展の節目となりまことを心から期待申し上げるとともに、貴協会並びに会員の皆さまのますますのご活躍・ご発展を祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

● お祝いメッセージ

The International Facility Management Association (IFMA)



Tony Keane, CAE

President and CEO
International Facility Management Association

The International Facility Management Association (IFMA), on behalf of our Board of Directors, staff and members worldwide, extends our congratulations to the Japan Facility Management Association and JFMA JOURNAL for 30 outstanding years representing the facility management profession in Japan.

We look forward to continuing the long history of cooperation between IFMA and JFMA in the years to come.

We wish you a successful Facility Management Forum next month, and invite you to join IFMA and the Royal Institution of Chartered Surveyors (RICS) for World Workplace Asia in Hong Kong later this year.

国際ファシリティマネジメント協会 IFMA

国際ファシリティマネジメント協会 代表、CEO
CAE

トニー・キーン

国際ファシリティマネジメント協会の理事会、職員、および世界中の会員を代表して、日本のファシリティマネジメント専門組織の代表として30周年を迎えられる日本ファシリティマネジメント協会およびJFMAジャーナル誌にお祝い申し上げます。私たちは、IFMAとJFMAの長い歴史を今後も継続していくことを期待しています。来月に開催される日本ファシリティマネジメント大会の成功を心よりお祈りいたします。年内にIFMAと英国王立チャータード・サーベイヤーズ協会(RICS)主催により、香港でワールドワークプレイスアジアを開催いたしますので、ご参加いただけましたら幸いです。

● お祝いメッセージ

한국퍼실리티매니지먼트 학회를 (KFMA)

권종욱

11 대 (2017-2018 년)
한국퍼실리티매니지먼트학회 회장



한국퍼실리티매니지먼트 학회를 대표하여 JFMA 설립 30 주년을 맞이 한 것을 진심으로 축하 드립니다. 지난 30 년 간 JFMA 는 각종 연구와 출판 활동 등을 통해, FM 업무의 정리 및 저변 확대를 이룩하고, 일본뿐만 아니라 아시아의 FM 발전에 크게 기여하고 있습니다. 특히 1997 년부터 실시 되는 자격시험에서는 10, 000 명 이상 합격자를 배출 하고 JFMA 인증 퍼실리티매니저가 FM 업무 현장에서 토대적인 역할을 하게 되었다고 듣고 있습니다. 이 같은 결과는 이웃나라인 한국에도 큰 자극과 힌트를 주었습니다. KFMA 는 1994 년 설립 초기부터, JFMA 와 친밀 한 관계를 유지 하고 있으며, 향후 더욱 발전 시켜 갈 것을 기대하고 있습니다. 지식 정보화 사회에서 조직의 효율적 관리를 위해서 FM 이 더욱 중요 해지고 있습니다. 또한 국제화가 진행된 시대를 맞이하여 JFMA 와 KFMA 협력이 아시아의 FM 의 발전을 위해 중요하다 고도 생각합니다. 또한 세계적으로도, FM-ISO 의 제정 등에 관련된 JFMA 와 KFMA 정보교환과 협력은 세계 FM 발전에도 매우 긍정적인 움직임 이라고 생각 합니다. 그리고, JFMA 및 KFMA 회원 / 기업 간의 교류도 더욱 확대 하여, 서로의 성장과 발전을 도울 수 있기를 기원 합니다. 다시 한번, JFMA 설립 30 주년을 축하 드립니다. JFMA 및 동회 회원 여러분의 앞날에 더한 활약과 발전을 기원 합니다.

韓国ファシリティマネジメント学会 KFMA

11代(2017-2018年)
韓国ファシリティマネジメント学会 会長

權鍾昱

韓国ファシリティマネジメント学会を代表して、JFMA 設立30周年をお迎えされましたこと、誠にありがとうございます。過去30年間 JFMA は、さまざまな研究と出版活動などを通じて、FM 業務の整理と底辺の拡大を成しとげ、日本だけでなくアジアのFMの発展に大きく貢献しております。特に1997年から実施されている資格試験では、10,000人以上の合格者を輩出し、認定ファシリティマネージャーが FM 業務の現場でかなめ的な役割を果たすようになったと聞いております。このような成果は、隣国である韓国にも大きな刺激とヒントを与えました。KFMAは1994年設立当初から、JFMAと親密な関係を維持しており、今後さらにそれを発展させていけることを願っています。知識情報化社会における組織の効率的かつ効果的な経営のためには、FMがますます重要になってきています。また国際化の進んだ時代を迎え、JFMAとKFMAの協力はアジアのFMの発展のために重要であるとも思っています。世界的にも、FM-ISOの制定などに関連したJFMAとKFMAの情報交換と協力は世界のFM発展のためにも非常に肯定的な動きだと思えます。そして、JFMAとKFMAの会員・企業間の交流もさらに拡大し、互いの成長と発展を助けることができることを願っております。もう一度、JFMA設立30周年をお祝い申し上げます。JFMAおよび会員皆さまの今後のさらなるご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

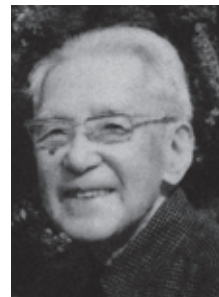
● お祝いメッセージ

FMが広く深く 浸透することを願って

鵜澤 昌和

うざわまさかず

JFMA名誉会長
(初代会長)



「光陰矢の如し」と申しますが、当時、東京理科大学の沖塩莊一郎教授、デルファイ研究所の金子悦輝代表等の皆さま方より、JFMA 設立にあたりご相談をいただき、私が初代会長をお引き受けして1987年任意団体として第一歩を踏み出しましたから早30年が過ぎました。

当初は事務局を内幸町の飯野ビルに構え、その後、湯島、赤坂、八丁堀、そして現在の浜町に移りました。その間、いくつかの難題、壁にもぶつかりましたが、まずファシリティマネジメント（以下、FM）の教科書作成、認定ファシリティマネジャーの資格制度発足、そしてJFMAの社団法人化など、一步一步着実にFMの発展に向けて、会長として24年もの年月、精魂込めて奉仕をさせていただきましたことは、私の人生にとりまして貴重な体験、同時に誇りとなっております。

これもひとえに理事、会員、事務局の皆さまのお力添えの賜物と、あらためて心より感謝申し上げます次第です。

また私の退任後、まもなく公益社団法人化され、後任の坂本春生前会長、山田匡通現会長の指揮のもと、皆さまが力を合わせてJFMAのさらなる発展に日々邁進されておられることを何よりありがたく、また嬉しく思います。

近年、地方公共団体においてもますますFMの必要性が求められて、「公共施設等総合管理計画」の策定要請が総務省から出されて公共におけるFMが一気に加速していると聞き及んでおります。JFMAによる出版、各種セミナー活動等がこれらの現状に大きく寄与し、公益社団法人としての役割を十分に果たしている結果といえましょう。

さらに、頻繁に報道されておりますオリンピック会場諸問題等に触れるにつけ、要求条件設定から建築計画・設計はもとより、将来にわたるランニングコスト、有効活用の検討、審査など、まさにFMの重要性を日々痛感しております。

なお、このような公共施設にFMが必要であることはいうまでもありませんが、公共施設と同じく、あるいはそれ以上にその有効性が発揮できるのはむしろ民間企業においてではないでしょうか。

まずわが国における経営者の多くがFMの意義を認識し、ファシリティマネジャー数がさらに増加して活躍の場をもち、今後FMが「当たり前のこと」「必要不可欠なこと」として広く、深く浸透して行き、まさにその原点、原動力、発信の場としてJFMAがさらなる飛躍を遂げることを願って止みません。

文末となりましたが、皆さまのますますのご健勝とご発展を心より祈念申し上げます。

● お祝いメッセージ

FMの思想を 社会に広めていくために

坂本 春生

さかもとはるみ

JFMA前会長

テクノプロ・ホールディングス株式会社取締役



設立 30 周年おめでとうございます。現在の JFMA の躍進は、ひとえに山田会長、役員の方々の皆さま、会員の皆さまのご尽力によるものと心より敬意を表します。

FM は思想であり、考え方です。社会を動かすエネルギーを生み出すためには FM のすそ野を広げることが一番大事だと考え、在任していた 5 年間はその思想や哲学を世の中に広めることに努めました。この間、FM を第四の経営基盤と位置付けて、忙しい経営者や初心者の方に向けて、FM を 90 分でご理解いただける『第四の経営基盤』という書籍も出版されました。これからは FM の哲学をもつことがトップの必要条件となることを願っています。

近年、政府の成長戦略と相まって、FM の思想や手法は総務省から地方公共団体へと広まってきました。情報の見える化をし、評価の基準を明確にしてトップが判断する。数字的、論理的な裏付けは住民を含めたステークホルダーへの説得材料になります。全体最適をめざすには企業や地方公共団体にもトップのもとに横串を通す FM の統括組織が必要です。

時代につれて、FM の浸透度も進んでいます。JFMA も 30 歳になって、今まさに社会に目を大きく開く時ですので、今年 2 月に開催される日本ファシリティマネジメント大会の「FM 思考で社会・経営の課題を解決する」というテーマはとても良いと思います。社会に貢献するためには、技術や専門知識を深めていくことが必要ですが、あわせて哲学、思想をさらに広めていくことが必要です。2020 年東京オリンピック・パラリンピックでは「レガシー」が語られています。まさに 10 年、20 年

先を考えた全体最適が問われているのです。このオリンピックを契機にして、FM は人に幸いをもたらす、コストや将来の利用を含めた全体最適を図っていく考え方であることが社会に定着することを願っています。将来を見据えて、全体最適を考えることは、日本の経済、政治のレベルをあげることにつながるのではないのでしょうか。

JFMA の魅力は、さまざまな業種の企業や団体、個人が集まり、FM という共通のテーマを語れることです。さらに外部の団体や組織と連携して丸となって社会へ働きかけていくことも可能です。

世の中は急速に変化しています。IoT や AI といった最先端技術を FM にどう役立てられるのかを追求し、社会に発信する。それが今後の JFMA の役割になると考えます。トップが FM を志向した時に経営技術を含めた FM の技術を使っただけになることを期待しています。

私は鶴澤元会長や皆さんが植えた FM の樹に広く葉を茂らせるように努めてきました。今後は山田会長のもと、FM の果実が実っていくことでしょう。人や社会の意識は一朝一夕には変わりませんが、繰り返していくことで浸透し、ある時、臨界点を超えるのです。

マネジメントはとても深遠で、いってみれば人間の人格のようなものです。集団から個に、単一から多様性の時代になり、働き方改革もはじまりました。そのためにも FM の思想を社会に広めていくことが必要だと考えています。

最後に皆さまのますますのご健勝とご発展を心より祈念申し上げます。